

事務連絡
令和2年2月25日

都道府県師会危機管理担当者様

公益社団法人日本鍼灸師会危機管理委員会
委員長 矢津田 善仁

新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起について（第三報）

令和元年12月に中国湖北省周辺で発生した新型コロナウイルス感染症は急激な勢いで感染者数が増加し、海外にも広がっています。国内では指定感染症に指定され、WHOは緊急事態宣言を出して対策が取られていますが、現時点ではまだ感染が拡大する傾向にあります。学会やイベントの中止も日本全国各地で報告され、一般の医療機関でも感染例や疑い例が受診する可能性を考慮せざるを得ない段階に入っています。

したがって感染拡大期に入ることも十分考慮し、発熱や呼吸器症状を発症して鍼灸院等を来院した患者については、院内での感染対策が徹底されるよう貴会会員へ周知をお願いします。また「新型コロナウイルス感染症に対する対応と院内感染対策」（玄関掲示用・院内掲示用）および「新型コロナウイルスを防ぐには」（厚労省発出・一般用）を添付しています。

なお、当該感染症におきましては情報収集を継続中であり、新たな対応を行う場合には別途お知らせします。

（参考リンク）

【厚生労働省ホームページ】

○中華人民共和国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスに関連した感染症に関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

【日本医師会ホームページ】

○新型コロナウイルス関連感染症

http://www.med.or.jp/doctor/kansen/novel_corona/009082.html

※標準予防策参考リンク

https://www2.huhp.hokudai.ac.jp/~ict-w/kansen/2.01_hyoujunyobousaku.pdf

※接触、飛沫予防策参考リンク

https://www2.huhp.hokudai.ac.jp/~ict-w/kansen/2.02_kansenkeirobotuyobousaku.pdf

●新型コロナウイルス感染症に対する対応と院内感染対策●

(日鍼会会員用)

公益社団法人日本鍼灸師会危機管理委員会

令和2年1月28日 発出

令和2年2月 5日 改訂

令和2年2月24日 改訂

1. はじめに

世界保健機関（WHO）の緊急委員会は、1月31日未明（日本時間）、中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC: Public Health Emergency of International Concern）」に該当すると発表した。

以下の内容については2月21日に国立感染症研究所 感染症疫学センター 国立国際医療研究センター 国際感染症センターから発出された「新型コロナウイルス感染症に対する感染管理」、2月13日に厚生労働省から発出された「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応について」および一般社団法人日本環境感染学会から発出された「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド」を基に作成しており、今後、最新の情報を基に変更されることがある。

2. 待合室、問診・移動時の感染対策

外来患者の待合室では、発熱や呼吸器症状を訴える患者とその他の患者、または発熱や呼吸器症状を訴える患者同士が、一定の距離を保てるように配慮する。急性呼吸器感染症の症状がある患者の問診・移動時には患者本人に必ずサージカルマスクを着用させ、スタッフは患者に接する際にサージカルマスクを含めた標準予防策（※前頁リンク参照）を実施する。

3. 新型コロナウイルス関連肺炎の疑い例のスクリーニングおよび定義

急性呼吸器感染症の症状がある患者が来院した場合、必ず予診を行い、疑い例をスクリーニングする。

また、以下の全てを満たす場合を「**疑い例**」とする。

I. 発熱（37.5 度以上 かつ 呼吸器 症状 を有している。

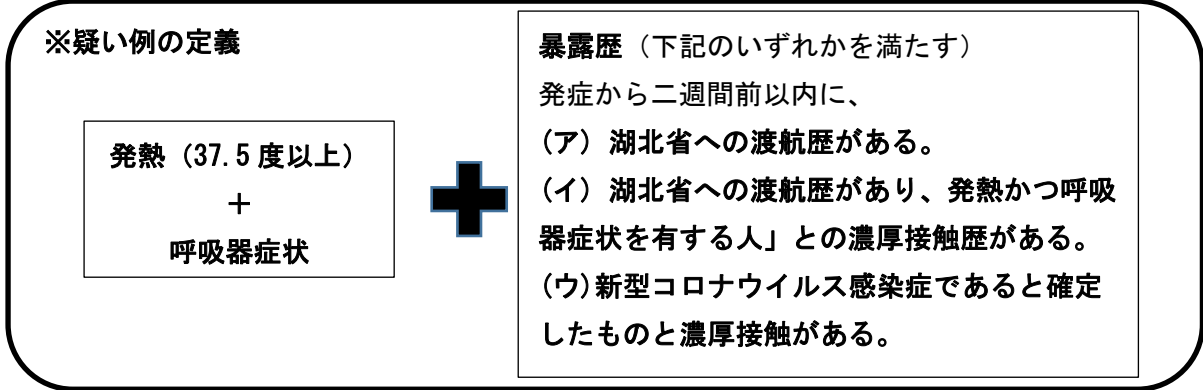
II. 以下の（ア）（イ）（ウ）の 曝露歴のいずれかを満たす。

発症から2週間前以内に

（ア）湖北省への渡航歴がある。

（イ）「湖北省への渡航歴があり、発熱かつ呼吸器症状を有する人」との濃厚接触がある。

（ウ）新型コロナウイルス感染症であると確定したものと濃厚接触がある。



4. 上記の疑い例に遭遇した場合、施術はおこなわず、速やかに最寄りの保健所への電話相談、または専門医療機関への電話相談後の受診を勧める。やむをえず施術する場合は**接触、飛沫予防策**（※前頁リンク参照）を実施する。

※保健所管轄区域案内

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/hokenjo/

※厚生労働省の電話相談窓口（コールセンター）

電話番号 0120-565653（フリーダイヤル）

受付時間 9：00から21：00（土日・祝日も実施）

※各都道府県の新型コロナウイルスに関するお知らせ・電話相談窓口

https://www.kantei.go.jp/jp/pages/corona_news.html

新型コロナウイルスを防ぐには

新型コロナウイルス感染症とは

ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。特にご高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられます。

日常生活で気を付けること

まずは手洗いが大切です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などにこまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、咳エチケットを行ってください。

持病がある方、ご高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

発熱等の風邪の症状が見られるときは、学校や会社を休んでください。

発熱等の風邪症状が見られたら、毎日、体温を測定して記録してください。

こんな方はご注意ください

次の症状がある方は「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている
(解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます)

強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある

※ 高齢者や基礎疾患等のある方は、上の状態が2日程度続く場合

センターでご相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いのある場合には、専門の「帰国者・接触者外来」をご紹介します。

マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて受診してください。

「帰国者・接触者相談センター」はすべての都道府県で設置しています。

詳しくは以下のURLまたはQRコードからご覧いただけます。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html



一般的なお問い合わせなどはこちら

その他、ご自身の症状に不安がある場合など、一般的なお問い合わせについては、次の窓口にご相談ください。

厚生労働省相談窓口 電話番号 0120-565653 (フリーダイヤル)

受付時間 9:00~21:00 (土日・祝日も実施)

聴覚に障害のある方をはじめ、電話でのご相談が難しい方 FAX 03-3595-2756

<都道府県の連絡欄>

◎来院された方へのお願い◎

発熱、せき・息切れ、強い倦怠感などの症状があり、**新型コロナウイルスの感染が疑われる方**は、直接受診する前に、必ず最寄りの帰国者・接触者相談センターもしくは専門医療機関に電話で相談し、指示を受けていただきますよう、よろしくお願いいたします。

※最寄りの帰国者・接触者相談センター
() 保健所 TEL _____



公益社団法人 日本鍼灸師会
Japan Acupuncture & Moxibustion Association

◎来院された方へのお願い◎

●発熱やせき・息切れ、強い倦怠感などの症状のある方は、必ずマスクを着用し、受付にその旨お申し出ください。